

ご紹介のお願い

報道関係各位

2020年1月

現代アートにおける“若手作家の登竜門”

『VOCA展2020 現代美術の展望－新しい平面の作家たち－』開催！

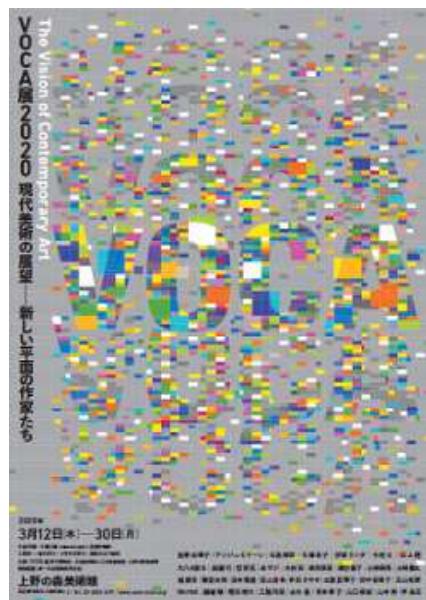
=VOCA(ヴォーカ)賞／Nerhol(ネルホル)さん=

会期:2020年3月12日(木)～30日(月)／会場:上野の森美術館

「VOCA展」実行委員会および公益財団法人日本美術協会・上野の森美術館は、来る3月12日(木)から3月30日(月)までの19日間にわたり、『VOCA展2020 現代美術の展望－新しい平面の作家たち－』(The Vision of Contemporary Art／特別協賛:第一生命保険株式会社)を上野の森美術館(東京都台東区)で開催します。

■新進気鋭の作家33人(組)が出品する展覧会

『VOCA展2020』に出品するのは、これからを期待される新進気鋭の作家33人(組)です。この中から、グランプリとなるVOCA賞には東京都在住(静岡県出身)・Nerhol(田中義久・飯田竜太)さんの《Remove》が決定した他、VOCA奨励賞には菅実花さん、李晶玉さん、VOCA佳作賞には黒宮菜菜さん、宮本華子さんの作品が選出されました。また、大原美術館賞には浅野友理子さんの作品が、同美術館の選考を経て選出されました。



■国際的に通用する若手作家の支援を目的に、1994年より開催

「VOCA展」は、現代アートにおける平面の領域で、国際的にも通用するような将来性のある若い作家の支援を目的に、1994年より毎年開催している美術展です。日頃から公平な立場で作家たちと接している全国の美術館学芸員、研究者、ジャーナリストなどから推薦委員を選出し、それぞれ40歳以下の作家1名(組)を推薦していただき、推薦された作家全員に展覧会への出品を依頼しています。こうしたシステムにより、全国各地で活躍する優れた未知の才能を毎回紹介しています。

■やなぎみわ、蜷川実花など多方面で活躍する作家を輩出

これまで「VOCA展」に出品した作家は、今回の『VOCA展2020』を含み、延べ921人(組)。福田美蘭(1994年VOCA賞)、やなぎみわ(1999年VOCA賞)、蜷川実花(2006年大原美術館賞)、清川あさみ(2010年佳作賞)など多方面で活躍している作家たちが出品しています。この間VOCA展は「平面」という一貫した切り口で若い世代の動向をヴィヴィッドに反映しながら、まさに「今日の美術」を見せてきました。

■『VOCA展2020』のさまざまな関連企画を実施 ※詳細は9頁参照

『VOCA展2020』の関連企画として、シンポジウム「VOCA展2020」(3月11日(水))や受賞作家による「アーティスト・トーク」(3月14日(土)・21日(土))、「学芸員によるギャラリートーク」(3月15日(日)・22日(日))などの実施に加え、上野の森美術館の別館ギャラリーでは、VOCA展1995、1999と奨励賞を受賞している石川順恵さんの個展を同時開催します。

第1回開催より「VOCA展」を協賛いただいている第一生命保険株式会社は、VOCA賞を収蔵し、本社1階にあるロビーでの展示や、第一生命ギャラリー(東京都千代田区)で定期的に公開しています。また全受賞者に対して、同ギャラリーを個展の会場として提供しています。

『VOCA展2020』の会期を含む3月2日(月)～4月10日(金)には『Japanesque!』(第一生命ギャラリー)、3月2日(月)～12月30日(金)までは『VOCA受賞作家展「TOKYO☆VOCA」』を第一生命ロビーにて開催します。

その他、3月28日(土)にはVOCA展会場にて第一生命コンサート「美術館で聴く子どものためのクラシック」(上野の森美術館、トリトン・アーツ・ネットワーク*協力)を実施します。(本イベントは招待制です)

*第一生命ホール(晴海)を拠点に、同ホールでの公演事業とホール周辺地域を中心としたコミュニティ事業を展開する認定NPO法人

■公式ページで「VOCA展」の情報を公開

『VOCA展2020』の最新情報は、上野の森美術館ホームページ(<http://www.ueno-mori.org/>)内で随時公開します。

『VOCA展2020』受賞者一覧

■ VOCA賞

作家名	生年	現住所	作品名	素材
Nerhol (ネルホル) (田中 義久/たなか よしひさ) (飯田 竜太/いいだ りゅうた)	1980 1981	東京都渋谷区	Remove	インクジェットプリント

■ VOCA奨励賞

作家名	生年	現住所	作品名	素材
菅 実花 (かん みか)	1988	千葉県松戸市	・ A Happy Birthday ・ #selfewithme	・ インクジェットプリント ・ iPad
李 晶玉 (り じょんおく)	1991	東京都小平市	Olympia 2020	墨、アクリル、デジタルプリント、パネル、紙

■ VOCA佳作賞

作家名	生年	現住所	作品名	素材
黒宮 菜菜 (くろみや なな)	1980	京都府京都市	Image - 終わりし道の標べに	アクリル、油彩、木製パネル、カンヴァス
宮本 華子 (みやもと はなこ)	1987	ドイツベルリン	白が消えていく。 - Mein Tagebuch -	写真印刷用紙、額、ディスプレイ、半透明カーテン、刺繡糸

◇選考委員（上記各賞については、以下の選考委員により選考）

小勝 禮子（選考委員長／美術史・美術批評）
 光田 由里（DIC川村記念美術館学芸部マネジャー）
 柳沢 秀行（大原美術館学芸課長）
 水沢 勉（神奈川県立近代美術館館長）
 家村 珠代（多摩美術大学教授）

■大原美術館賞 ※同美術館独自の選考を経て決定。

作家名	生年	現住所	作品名	素材
浅野 友理子 (あさの ゆりこ)	1990	宮城県多賀城市	くちあけ	油彩、水干絵具、岩絵具、木製パネル、和紙

「VOCA展」実行委員会

- 委員長： 小勝 禮子（美術史・美術批評）
- 副委員長： 畠中 秀夫（第一生命保険株式会社 取締役常務執行役員）
- 委員： 光田 由里（DIC川村記念美術館学芸部マネジャー）
 柳沢 秀行（大原美術館学芸課長）
 水沢 勉（神奈川県立近代美術館館長）
 家村 珠代（多摩美術大学教授）
 泉 菜々子（第一生命保険株式会社 DSR 推進室課長）
 坂元 晓美（上野の森美術館学芸課長）

「VOCA展2020」開催概要

◆名 称	VOCA展2020 現代美術の展望－新しい平面の作家たち－
◆主 催	「VOCA展」実行委員会/公益財団法人日本美術協会・上野の森美術館
◆特別協賛	第一生命保険株式会社
◆会 場	上野の森美術館（東京都台東区上野公園1-2）
◆会 期	2020年3月12日（木）～3月30日（月）〔19日間／会期中無休〕
◆開館時間	10:00～18:00 ※入場は閉館30分前まで
◆入 場 料	一般600（500）円、大学生500円、高校生以下無料 ※（ ）は前売料金
◆チケット	チケットぴあ（Pコード：685-099）、ローソンチケット（Lコード：38070）、e+（イープラス）・スマチケ、LINEチケット、楽天チケット、主要コンビニエンスストア店頭などで販売 ※手数料がかかる場合あり
◆推薦委員	「VOCA展」実行委員会から選出された、全国の美術館学芸員、研究者、ジャーナリストなどに、作家1名（組）の推薦を依頼
◆出品作家	<ul style="list-style-type: none">・推薦委員の推薦に基づき、VOCA展実行委員会より依頼した作家、国籍不問・1979年4月1日以降生まれ（40歳以下）※同展会期中（2020年3月）に40歳以下であること・過去26回開催した「VOCA展」の出品作家（受賞者含む）も可
◆出品作品	<ul style="list-style-type: none">・平面作品・抽象、具象、素材は問わない・出品時からさかのぼって1年以内に制作された、未発表の作品・作品サイズは、250cm x 400cm以内の壁面（タテ形、ヨコ形は不問）に展示できるもの・作品単体のサイズ（輸送時）は、250cm x 200cm以内とし、複数の作品、パネル等のジョイントにより250cm x 400cm以内の壁面に展示できるものとする 例：250cm x 200cmのパネル2枚を会場でジョイントして250cm x 400cmとすることは可 250cm x 400cmの巻キャンバスと木枠を会場で組み立てることは不可・作品の厚さは、20cm以内・作品の重量は、総重量80kg以内、個々で40kg以内・展覧会場で制作および長時間の展示作業を必要としない完成作品 複数の作品もしくは部分で構成される場合は明確な展示図面、指示書を提出すること*展示に支障をきたす作品は不可*作品は第三者の権利（著作権、肖像権など）を侵害しないこと*作品が出品規定を満たしているかの最終的な判断は主催者に委ねられる*作品の展示場所は、主催者側の判断で決める*展示壁面の高さは、250cm～500cm（展示室によって異なる）
◆選考委員	小勝 禮子（選考委員長／美術史・美術批評） 光田 由里（DIC川村記念美術館学芸部マネジャー） 柳沢 秀行（大原美術館学芸課長） 水沢 勉（神奈川県立近代美術館館長） 家村 珠代（多摩美術大学教授）
◆賞	VOCA賞 1名 正賞および副賞（300万円） VOCA奨励賞 2名 正賞および副賞（50万円） VOCA佳作賞 2名 正賞および副賞（10万円） ※上記3賞は、選考委員が選考します ※選考により、「該当者なし」のこともあります ※VOCA賞は、第一生命保険株式会社の収蔵作品となります 大原美術館賞 1名 正賞および副賞 ※大原美術館賞は、館の代表者がVOCA賞以外から選定し、作者の了解のもと、同館の収蔵作品となります ※上記4賞（最大6名）の入賞者には、第一生命ギャラリーでの個展の機会が与えられます

※第一生命保険株式会社は、VOCA展の運営サポートを行うほか、受賞作品を収蔵し、本社1階にあるロビーでの展示や、第一生命ギャラリー所蔵作品展で同作品の定期的な公開を行っています。また、受賞者による同ギャラリーでの個展も随時開催しています。



Nerhol (田中義久・飯田竜太)

《Remove》

インクジェットプリント

[150cm×204cm×5.7cm]

●VOCA賞受賞者 **Nerhol (田中義久・飯田竜太) さんのコメント**

トーマス・エジソンといえば、電球を発明した偉大な人物として今も語り継がれる。金メッキ時代のアメリカで、発明家は国家のシンボルであり「英雄」にふさわしい存在だった。英雄は、極刑の象徴である電気椅子さえ作り上げた。電気椅子に死刑囚の苦痛軽減を目指す進歩的かつ人道的関心などはなく、囚人を犠牲とした事実上的人体実験であり、その技術はエジソンのライバル会社に対する優位性を担保した。進歩への渴望に競争が加わったとき、私たちの価値観はどれほど「正しく」いられるだろう？平凡な市民が人道性を容易に躊躇してしまうことは、アイヒマン（実験）が証明するところだ。1961年、旧ソ連が人類史上初の有人宇宙飛行を成功させた。宇宙開発競争に後手を踏んだアメリカは不安を増大させ、ケネディは月面着陸の成功を公約に掲げるまでにいたる。多くの試練と犠牲の上でアポロ11号はその公約をついに実現した。今年はそれからちょうど50年にあたる。

◇推薦委員・工藤香澄氏（横須賀美術館）のコメント（会場における本作品鑑賞の手引き）

Nerholは連続写真を重ね合わせ、部分的に彫ることで、動きや過去と現在をつなぐ「時間性」を与えている。本作は1969年のアメリカの宇宙飛行士のテストプログラム中のある場面だが、一見何をしているか分からず想像をかきたてる。ガラスの破片のような画面とも相まって、事実と想像、歴史と現在のつながりと搖らぎを問うてくる。

「VOCA展2020」その他の受賞作品

【VOCA奨励賞】



菅 実花 《A Happy Birthday》
《#selfiewithme》

・インクジェットプリント
・iPad
[223.3cm×152.4cm×4.5cm
19cm×24cm×5cm (映像5分)]



李 晶玉 《Olympia 2020》

墨、アクリル、デジタルプリント、パネル、紙
[220cm×360cm×4cm]

【VOCA佳作賞】



黒宮 菜菜 《Image - 終わりし道の標べに》

アクリル、油彩、木製パネル、カンヴァス
[194cm×242.5cm×7cm]



宮本 華子 《白が消えていく。- Mein Tagebuch -》

写真印刷用紙、額、ディスプレイ、半透明カーテン、刺繡糸
[56.4cm×75.2cm×3cmが2枚 (写真)
56.4cm×75.2cm×3cm (ディスプレイ・映像20分45秒)
245cm×400cm×3cm (カーテン)]

【大原美術館賞】



浅野 友理子 《くちあけ》

油彩、水干絵具、岩絵具、木製パネル、和紙
[240cm×390cm×5cm]

※ご掲載にあたり、「VOCA展2020」の作品画像
のご要望につきましては、広報事務局にて承ります。

VOCA展広報事務局 担当：青沼・後藤・矢澤)

TEL : 03-5565-1121

Email : voca_pr@frontier-e.co.jp

小勝禮子（選考委員長／美術史・美術批評）

今回のVOCA展は手法は多様でありながら、それぞれ質の高い作品が揃った。その中で受賞作品には写真の技法を使ったものが多く入ったが、単に写真というだけではなく、それに手を加えて加工した、独自の技法を駆使したものであった。デジタルばかりでなく、アナログ的な手法も使い、いかに加工するか、そこに各作家のオリジナリティと創意が込められ、また作品の主張も凝縮されていた。VOCA賞のNerhol《Remove》、奨励賞の菅実花《A Happy Birthday》《#selfiewithme》、李晶玉《Olympia2020》などである。

光田由里（DIC川村記念美術館学芸部マネジャー）

デジタル画像時代の美術の位置を再考した。Nerholが、見つけた写真を工モーショナルな彫刻に埋め込み物質感とトラウマ感を与える時、通過できない実体が現れる。瞬時に加工増幅可能な画像の中で、菅実花自身は敢えて精巧に仕上げたヒト型と並ぶ。李晶玉はグラフィックで空虚なスタジアムに、鮮明な写真の人をモニュメンタルに立ち上げた。呪言をステッチして自らを浄化する行為を、宮本華子は壁面に凝集した。黒宮菜菜の鍊金術的マチエールは画像には取り込めない。

柳沢秀行（大原美術館学芸課長）

作品の観察により収集できる情報と、作品の観察だけでは把握しえない情報とのあわいに思いをはせる審査だった。Nerholは、制作手法に大きな変化はないが、選択した画像と手法のバランスが良く、強度のある作品となっていた。推薦文によると、画像は宇宙飛行士の重力を除去する実験であり、作家もまたその画像を当初は誤読していたという。この誤解が解けた瞬間、作者にとって作品の意味はどう変わったのだろうか？その転換も含めて興味深い作品である。

水沢 勉（神奈川県立近代美術館館長）

VOCA賞のNerholは、イメージを写真から発掘してみせる仕事で鮮烈であった。実在する自分とそれをコピーした人形のダブルポートレートに、さらにセルфиーの加工画像を液晶モニターで相乗させる菅実花も、それに劣らずユニークな作品だった。李晶玉のグラフィックな処理を加味した「絵画」表現も熱く、冷たい。宮本華子の映像と刺繡の手わざの組み合わせも日常を掬いあげる試みだった。黒宮菜菜のたっぷりと費やされた絵画の時間も秀逸だ。

家村珠代（多摩美術大学教授）

今年のVOCA作品は、Nerholと菅実花の作品が印象に残った。Nerholは、何重にも積層された写真を、荒く、うねるように切り刻むことで、彫刻的とも言える物質感を獲得しつつも、イメージをモノクロームとすることで、再び写真的な質に近づけるという、両義性をもったものだった。いっぽう菅は、これまでのようにラブドールに仮託するのではなく、自身の顔部を型取りした人形と並んで記念写真を撮ることで、自身に内在するアンドロイド性を垣間見せることに成功していた。

「VOCA展2020」出品作品一覧 [作家33人(組)／50音順]

作家名	生年	現住所	作品タイトル	素材
浅野 友理子	1990	宮城県多賀城市	くちあけ	油彩、水干絵具、岩絵具、木製パネル、和紙
アンジュ・ミケーレ	1989	京都府京都市	sway sacred ritual resonance splash ascension angular light stone tunnel drop	アルミニウム紙、油彩、パネル アルミニウム紙、油彩、パネル アルミニウム紙、油彩、パネル アルミニウム紙、油彩、パネル アルミニウム紙、油彩、パネル アルミニウム紙、油彩、パネル アルミニウム紙、アクリル、パネル アルミニウム紙、油彩、パネル アルミニウム紙、油彩、パネル アルミニウム紙、油彩、パネル
生島 国宜	1980	福岡県福岡市	・あはれなりわが身のはてやあさ縁つひには野辺の霞と思へば ・わびめれば身をうき草の根を絶えて誘ふ水あらばいなむとぞ思ふ	油彩、蝶、陶磁器用絵具、カンヴァス
石澤 英子	1981	オランダ アムステルダム	平面と線と意図の境目	木、布、ペイント、カイトスティック
伊波 リンダ	1979	沖縄県うるま市	Searchlight	インクジェットプリント、額、液晶ディスプレイ
今村 文	1982	愛知県長久手市	お花のえ きく、りんどう、百日草	漆喰、エンカウスティック、パネル
江上 越	1994	千葉県千葉市	Portrait of communication	油彩、カンヴァス
大八木 夏生	1991	京都府京都市	思い出を通り一遍、スッパ抜くパターン	アクリル、カッティングシート、シルクスクリーン、木製パネル
加藤 巧	1984	岐阜県岐阜市	マカロニ	木材、アルミニウム材、ジェスモナイト、樹脂プラスター、漆喰、顔料
菅 実花	1988	千葉県松戸市	・ A Happy Birthday ・ #selfiewithme	・ インクジェットプリント ・ iPad
金 サジ	1981	大阪府枚方市	女たちは旅に出、歌と肉を与えた	インクジェットプリント、アルミニウムマウント、額
木村 宙	1980	東京都町田市	TYPE64 7.62×51mm NATO 一銃ハ擊ッタコトガアルガ、人ハ擊ッタコトハナ一	布(T シャツ、古着)に転写プリント、金属製フェンス、ハンガー、テグス、糸
黒宮 菜菜	1980	京都府京都市	Image - 終わりし道の標べに	アクリル、油彩、木製パネル、カンヴァス
國分 郁子	1982	千葉県松戸市	また一つの川がエデンから流れ出てエレクトロンを潤した	アクリル、油彩、カンヴァス
小林 麻美	1980	北海道札幌市	Gift ～贈り物の中身はもうわかっている～ ・ 考えすぎの待合室 ・ あしたのわたしとあそぶ公園 ・ わたあめごしの部屋	油彩、アクリル、カンヴァス
小林 健太	1992	神奈川県川崎市	Dizzy #smudge, Dizzy #smudge #invert	インクジェットプリント、アクリルマウント
城 愛音	1994	奈良県奈良市	my pieces	油彩、カンヴァス
諏訪 未知	1980	神奈川県横浜市	正面の島	油彩、アクリル、カンヴァス

高木 敦基	1980	岡山県倉敷市	組み立て式の社会 (パターンとコントラストの隙間)	アクリル塗料、プレート看板 (アルミ複合板)
高山 夏希	1990	東京都世田谷区	World of entanglement 2020	アクリル、油彩、糸、木製パネル
多田 さやか	1986	東京都世田谷区	網膜剥離	アクリル、金属、和紙、プラスチック、シナベニヤ
立原 真理子	1982	東京都町田市	・いくつ島 ・香山の道すがら ・御嶽のある風景	刺繡糸、網戸
田中 奈津子	1981	京都府京都市	ANDROGYNOS #1 ANDROGYNOS #2	アクリル、カンヴァス
玉山 拓郎	1990	埼玉県川口市	5 shapes (Sally green)	アクリルミラー、LED 蛍光灯、アルミニウム、ステンレス
Nerhol (ネルホル) (田中 義久) (飯田 竜太)	1980 1981	東京都渋谷区	Remove	インクジェットプリント
藤城 嘘	1990	東京都足立区	Lounge of earthly delights / Oruyankée aux Enfers	アクリル、油性インク、木製パネル
増田 将大	1991	茨城県取手市	Moment' #37	シルクスクリーン、アクリル、ジェッソ、木製パネル、カンヴァス
三瓶 玲奈	1992	東京都目黒区	Landscape	油彩、カンヴァス
水木 墾	1983	京都府京都市	Shigam #5	ミクストメディア
宮本 華子	1987	ドイツ ベルリン	白が消えていく。 - Mein Tagebuch -	写真印刷用紙、額、ディスプレイ、半透明カーテン、刺繡糸
山口 麻加	1991	愛知県 名古屋市	・面をひらく (星／オリオンとスコーピオンをつなぐ) ・面をひらく (星／地点 c と地点 g をつなぐ) ・面をひらく (星／透過する座標)	インク、額、紙
山本 努	1980	千葉県柏市	cosmic net	ウレタン塗料、FRP
李 晶玉	1991	東京都小平市	Olympia 2020	墨、アクリル、デジタルプリント、パネル、紙

「VOCA展2020」関連企画

■シンポジウム「VOCA展2020」を語る ※要申込み（下記参照）／定員：150名

日時：3月11日（水）15:00～17:00／場所：上野の森美術館

パネリスト：小勝禮子（「VOCA展2020」選考委員長）、光田由里*、柳沢秀行*、水沢勉*、家村珠代*
（*「VOCA展2020」選考委員）

Nerhol(田中義久・飯田竜太)（VOCA賞）、菅実花（VOCA奨励賞）、李晶玉（VOCA奨励賞）、
黒宮菜菜（VOCA佳作賞）、宮本華子（VOCA佳作賞）、浅野友理子（大原美術館賞） ※敬称略

＜シンポジウムお申込み・お問合せ＞

住所・氏名と、シンポジウム参加希望を明記のうえ、FAXまたはeメールにてお申し込みください。

定員となり次第、締め切らせていただきます。

◎申込み先：上野の森美術館「VOCA展」係 FAX：03-3833-4193／eメール：voca2020_s@ueno-mori.org

※申込みの際に取得した個人情報は、申込み者への通知および予定変更等の連絡のみに使用いたします。

◎問合せ先電話番号：03-3833-4191（上野の森美術館）

■受賞作家によるアーティスト・トーク ※申込み不要。ただし、展覧会の入場券が必要。

日時：3月14日（土）15:00～16:00 浅野友理子（大原美術館賞）、黒宮菜菜（VOCA佳作賞）、宮本華子（VOCA佳作賞）

3月21日（土）15:00～16:00 Nerhol（VOCA賞）、菅実花（VOCA奨励賞）、李晶玉（VOCA奨励賞）

場所：上野の森美術館

■学芸員によるギャラリートーク ※申込み不要。ただし、展覧会の入場券が必要。

日時：3月15日（日）、22日（日）15:00～／場所：上野の森美術館

■【同時開催】石川順恵 展

日時：3月12日（木）～30日（月）10:00～18:00／場所：上野の森美術館ギャラリー

上野の森美術館の別館ギャラリーでは、VOCA展の会期に合わせ、同展覧会にゆかりのある作家の小企画展を開催します。今回は、VOCA展1995、1999と奨励賞を受賞している石川順恵さんの個展です。

■東京・春・音楽祭「ミュージアム・コンサート 篠崎和子（ハープ）～現代美術と音楽が出会うとき」

日時：3月18日（水）19:00～／場所：上野の森美術館

■東京・春・音楽祭「ミュージアム・コンサート 安達真理（ヴィオラ）～現代美術と音楽が出会うとき」

日時：3月26日（木）19:00～／場所：上野の森美術館

毎年開催される、東京・春・音楽祭－東京オペラの森2020－のプログラムとして、VOCA展展示室内で行うミュージアム・コンサートを開催。

現代美術の展示される会場で聴く現代音楽は普段では味わえない格別な時間をお届けいたします。

※チケットのご購入等、詳しくは音楽祭の公式HPをご参照ください。<http://www.tokyo-harusai.com>

■「第一生命ギャラリー&ロビー」展示スケジュール

場所：東京都千代田区有楽町1-13-1 第一生命保険株式会社 日比谷本社1F

青木恵美子、碓井ゆい、大小島真木、幸田千依、鈴木星亜、東城慎之介、平子雄一など、VOCA作家の受賞作品や近作・新作を展示します。

展覧会名	会期
「Japanesque！」	2020年3月2日（月）～4月10日（金）12:00～17:00（金曜は19:00まで） 第一生命ギャラリー ※土・日・祝日は休み
VOCA受賞作家展「TOKYO☆VOCA」	2020年3月2日（月）～12月30日（水）8:00～20:00 第一生命ロビー ※無休

※「VOCA展2020」の作品画像や招待券読者プレゼント等のご要望につきましては、下記広報事務局にて承ります。

《この件に関するお問合せ先》

VOCA展広報事務局（株式会社フロンティア・エンタープライズ内 担当：青沼・後藤・矢澤）

TEL：03-5565-1121／Email：voca_pr@frontier-e.co.jp

上野の森美術館（担当：坂元、大柳）TEL：03-3833-4191

第一生命保険株式会社（担当：泉、中村）TEL：050-3780-3639